

編集後記

第32巻は原著論文12件、テクカルノート1件、教育論文2件が掲載されています。コロナ禍2年目に入り、経営学部がこの3月にみなとみらいキャンパスに移転、再来年2023年には理学部も横浜（六角橋）キャンパスに移転が予定されています。このたいへんな状況の中で、例年と変らぬ数の研究論文を投稿していただいた著者の先生方に感謝申し上げます。さらには、川本総理研所長、編集委員の先生、鈴木編集顧問、事務局竹内さんにも感謝申し上げます。

Science Journal of Kanagawa University はかつて平塚キャンパス解説20周年記念号（2009年、第20巻、No2）につづいて理学部創設30周年記念号（2017年、第28巻、No2）を発売し、ほぼ理学部全部の先生方から原稿をおよせいただくことができています。その結果、研究成果を埋もれさすことなく、著者の意思で自由に公表できる身近な総合科学学術誌に成長してきています。

その間、学外者による審査員制度をもうけ、大学紀要から脱皮することが一時検討されたことがありましたが、このように現状維持で今にいたっていません（第26巻、編集後記、鈴木季直先生）。私事です

が、長年授業で蓄えた資料をまとめて出版したいと某出版社に相談したところ、ある程度の売り上げが見込めないとのことで断られました。その内容をいま教育論文としてシリーズで掲載していただいております、たいへんに助かっています。本誌は国立情報研究所、神奈川大学図書館及び総合理学研究所のホームページをつうじて公開されているので、WEBで検索をしますと過去のシリーズがしっかり拾え、目的は達成されていると思います。さらに専門の研究論文についても、以前は1つの研究成果をまず速報として発表し、その後データを追加してフルペーパーとしてきました。しかし学術誌のWEBサイトに膨大な研究論文のサポーター・インフォメーションが掲載されるようになると、それがフルペーパーの役目を果たすようになり、速報に値しない研究成果を発表する機会がなくなりつつあります。その点でも大学紀要のメリットが再認識されていると思います。

最後に理学部の横浜（六角橋）キャンパス移転にともない、理工再編が検討されています。今後、新制理学部においても、本誌が理学部の研究推進の基軸として、さらに発展することを願ってやみません。

〔 神奈川大学総合理学研究所 〕
〔 理学部・化学科 加部義夫 〕

神奈川大学理学誌編集委員会		Science Journal of Kanagawa University	
委員長		Editor-in-Chief	
川本達也	化学科	Tatsuya Kawamoto	Department of Chemistry
委員		Editors	
安積良隆	生物科学科	Yoshitaka Azumi	Department of Biological Sciences
阿部吉弘	数理・物理学科	Yoshihiro Abe	Department of Mathematics and Physics
井上和仁	生物科学科	Kazuhito Inoue	Department of Biological Sciences
加部義夫	化学科	Yoshio Kabe	Department of Chemistry
川東 健	数理・物理学科	Ken Kawahigashi	Department of Mathematics and Physics
桑原恒夫	情報科学科	Tsuneo Kuwabara	Department of Information Sciences
張 善俊	情報科学科	Shanjun Zhang	Department of Information Sciences
堀 久男	化学科	Hisao Hori	Department of Chemistry
顧問		Adviser	
鈴木季直	神奈川大学名誉教授	Suechika Suzuki	Emeritus Professor of Kanagawa University

Science Journal of Kanagawa University Vol. 32 (Sci. J. Kanagawa Univ.)

発行日 2021年6月30日
 編集者 Science Journal of Kanagawa University 編集委員会
 発行者 神奈川大学総合理学研究所
 発行所 〒259-1293 平塚市土屋 2946
 Tel. 0463-59-4111 (内 2500)
 Fax. 0463-58-9684
 印刷所 光和アドバンス株式会社